

事後評価結果（令和５年度）

担当課：北海道開発局 建設部 道路計画課

担当課長名：坂 憲浩

事業名	一般国道３３６号 えりも 襟広防災	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道幌泉郡えりも町字庶野 至：北海道広尾郡広尾町ツチウシ	延長	１８．７km		

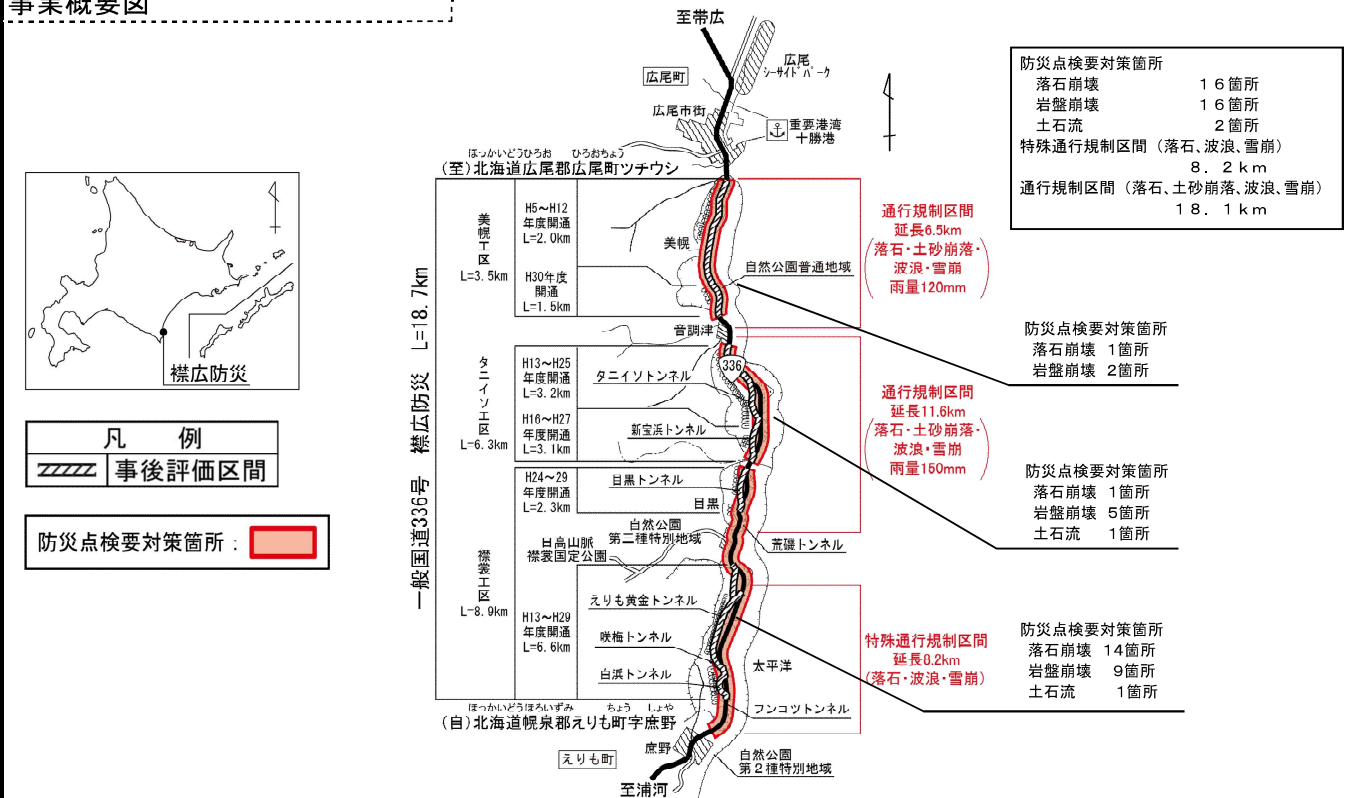
事業概要

国道３３６号は、浦河町を起点とし、釧路市に至る延長約１５０kmの幹線道路である。
襟広防災は、落石、土砂崩落、波浪、雪崩等の通行規制区間、特殊通行規制区間及び危険箇所の解消を図り、道路の安全な通行の確保を目的とした、えりも町字庶野から広尾町ツチウシに至る延長１８．７kmの事業である。

地域の防災面の課題

- 平成１５年度には、十勝沖地震及び宇遠別第１覆道の斜面崩落により、えりも町目黒地区（人口：１４６人）が約９６０時間に渡り孤立。
- 当該区間の防災面の課題は、えりも町及び広尾町の日常生活や経済活動を営む上で重大な障害及び不安要素となっており、えりも町及び広尾町からも改善の要望が出されているなど地域の喫緊の課題となっている。
- 防災上の対策必要箇所が３４箇所（落石・崩壊：１６箇所、岩盤崩壊：１６箇所、土石流：２箇所）、異常気象時の通行規制区間が２区間（連続雨量８０mm・１２０mm）、特殊通行規制区間が１区間（落石・波浪・雪崩）存在し、早急な対策が必要。（北海道開発局道路防災専門委員会（Ｈ２５．１０））
- 「タニイソエ区」のタニイソトンネル及びトンネル前後区間には、高さ３０m～１００m程度の急崖 斜面が連続しており、岩盤は風化の受けやすい岩質となっているため、早急な対策が必要。（北海道開発局道路防災専門委員会（Ｈ２５．１０））
- 新宝浜トンネルにおいて、想定より硬質な岩盤を確認。（北海道開発局道路防災技術専門委員会Ｈ２７．７）
- 当初想定より岩盤が風化の影響を強く受けていた及び新たに落石が発生した法面箇所を確認。（北海道開発局道路防災技術専門委員会Ｈ２７．７）

事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度 都市計画決定	H2年度 —	用地着手 工事着手	H3年度 H2年度	供用年 (暫定/完成)	(当初) —/H18年度 (実績) —/H30年度	変動	1.7倍
	事業費	計画時 (暫定/完成)	(名目値) —/ 792億円 (実質値) —/ 772億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) —/ 840億円 (実質値) —/ 822億円			変動	1.1倍
	費用対効果 分析結果 (当初)	事業の効果等 ○救急医療の改善効果 (114億円) ○地域住民の不安感の解消 (1,035億円)						費用 900億円 事業費: 902億円 維持管理費: -2.8億円	
	費用対効果 分析結果 (事後)	事業の効果等 ○救急医療の改善効果 (2.2億円) ○余裕時間の短縮による効果 (0.36億円) ○CO2排出量の削減効果 (0.06億円) ○地域住民の不安感の解消 (1,510億円) ○事業による地域経済の活性化効果 (352億円)						費用 1,574億円 事業費: 1,576億円 維持管理費: -1.9億円	
	事業遅延の理由 大雨による落石及び風化の進行に伴う法面对策範囲の拡大、トンネル掘削パターンの変更等による延伸								
事業 変化 による 環境	客観的評価指標に対応する事後評価項目 事業の整備効果 ① 道路交通の安全性向上 ・防災上の要対策箇所34箇所の対策が完了し、通行規制区間の規制基準が緩和され、通行規制時間や通行規制回数が大きく減少したことで道路交通の安全性が向上。 ② 日常生活の安全性や利便性の向上 ・えりも町目黒地区では通行止めによる孤立化回数が約9減少し、日常生活の安全性や利便性が向上。 ③ 救急搬送の安定性向上 ・えりも町から帯広市の高次医療施設までの救急搬送の安定性が向上。 ④ 地域医療の安定性向上 ・安全性や確実性の高い通院ルートが確保され、地域医療の安定性が向上。 ⑤ 水産品の流通利便性向上 ・通行規制が緩和されたことで、漁業経営の安定性や水産品の流通利便性が向上。 ⑥ バス交通の利便性向上 ・通行止め回数の減少などにより、安全性や確実性の高いバスルートが確保され、バス交通の利便性が向上。								
	その他評価すべきと判断した項目 特になし								
	環境影響評価に対応する項目 環境影響評価の対象外事業である。 その他評価すべきと判断した項目 特になし								
事業評価監視委員会の意見 当委員会に提出された事後評価結果準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。									
事業を巡る社会情勢等の変化 ●人口・産業等の社会経済情勢の変化 (対象地域: えりも町、広尾町) ・人口は、事業化当時約18.7千人(S60)→開通後約10.8千人(R2)となっている。(住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査) ・漁獲量は、事業化当時約105,561t(H2)→開通後約88,961t(R2)となっている。(北海道水産現勢)									

今後の事後評価及び改善措置の必要性	襟広防災の整備により、落石、土砂崩落、波浪、雪崩等の通行規制区間、特殊通行規制区間及び危険箇所 の解消、道路の安全な通行の確保など当初の目的が達成されていることから、今後の事後評価及び改善 措置の必要性はないものとする。 なお、今後も利用状況の把握に努めるとともに、利用しやすい道路環境を確保するため、適切な維持管 理に取り組んでいく。
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	落石等による危険箇所や地域の道路利用実態を鑑み、重点的に整備が必要となる箇所を把握し事業を進 めることができた。今後も、事業の実施においては、関係機関とも綿密に連携し進めていくことが重要で ある。 また、事業評価手法の見直しの必要性はないものとする。
特記事項	特になし

※ 事業の効果に記載している金額は、防災面の効果を完成後50年間の便益額として現在価値化して算出
した値であり、試算値を含む。

※ 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値。